

## 初出一覧

以下に、本論文の内容のもとになった論文・口頭発表、および、本論文での該当箇所を記す(発表年順)。

ただし、本論文執筆にあたり、内容を大幅に修正している。

### 【口頭発表】

「「してくる」のアスペクト的意味「進展性」について」平成 17 年度 日本語学会 春季大会 (2005 年 5 月 29 日, 甲南大学) 予稿集 pp.63-70.

※第 9 章、第 11 章

### 【論文】

「進展過程のアスペクト的意味を表す「してくる」「していく」形式について」『日本研究教育年報』10 号, 東京外国語大学 日本課程・留学生課共編, 2006 年 3 月, pp.59-82.

[再録: 国立国語研究所監修『日本語学論説資料 第 43 号 第 2 分冊増刊(文法)』, 論説資料保存会, 2008 年 10 月, pp.196-208.]

※第 9 章、第 11 章、第 12 章

### 【口頭発表】

「いわゆる「アスペクト」を表す「～していく」の再検討」平成 20 年度 日本語学会 秋季大会 (2008 年 11 月 3 日, 岩手大学)予稿集 pp.121-128.

※第 12 章

### 【論文】

「動詞「くる」と「いく」の多義構造の違いについて」富盛伸夫・峰岸真琴・川口裕司編『コーパスに基づく言語学教育研究報告 1 コーパスを用いた言語研究の可能性』, 東京外国語大学大学院地域文化研究科 グローバル COE プログラム コーパスに基づく言語学教育研究拠点, 2009 年 3 月, pp. 191-217.

※第 7 章